追求の授業をつくる会
2023　学級びらきセミナー

# 国語　追求能力の育成

違和感・疑問をもつ感覚を磨く

# 「国語」っておもしろい？

難しいことに
挑戦したい
（挑戦意欲）

謎を
解きたい
（解決意欲）

自分を
高めたい
（成長意欲）

子どもの
願い

- ▷ 分かり切ったことを確認するだけの授業
- ▷ 感想を発表し合うだけの授業
- ▷ 登場人物の気持ちを想像するだけの授業
- ▷ 何でもアリの授業
- ▷ 先生の正解を当てっこするだけの授業
- ▷ 国語じゃない国語の授業

**子どもの心を触発できない**
**（＝おもしろくない）**

# 「国語」っておもしろい？

難しいことに
挑戦したい
（挑戦意欲）

謎を
解きたい
（解決意欲）

自分を
高めたい
（成長意欲）

子どもの
願い

- ▷ 分かり切ったことを確認するだけの授業
- ▷ 感想を発表し合うだけの

像

**追求の授業は、これら全てに応えることができる**

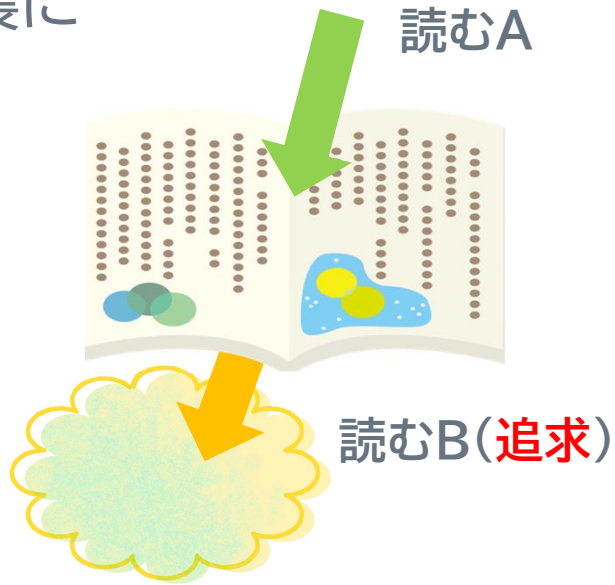
子どもの心を触発できない
（＝おもしろくない）

# 「国語（文学教材）を追求する」とは？

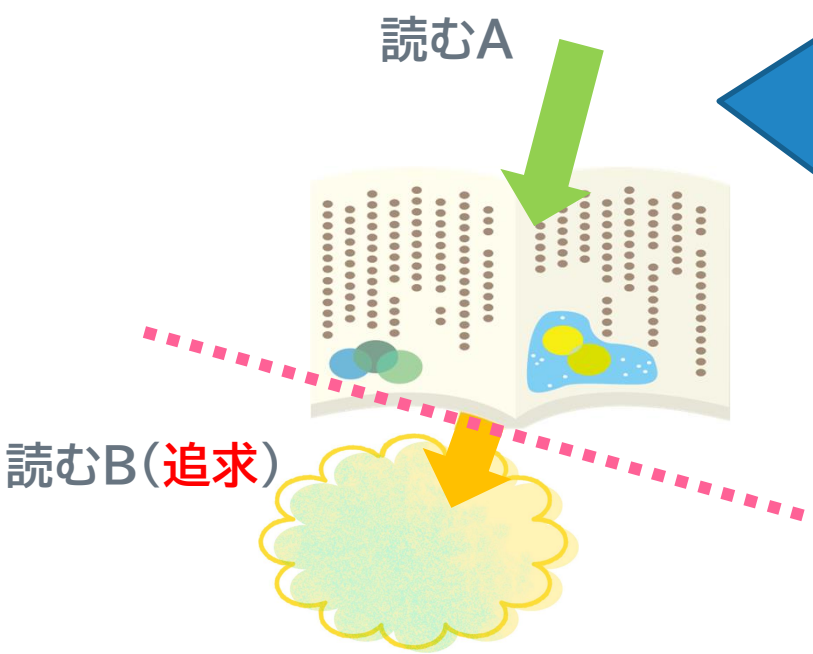
- ▷ 読むA　見えているもの（言葉・文）を「読む」

- ▷ 読むB　見えないもの（言葉・文の裏に隠されたものを「読む」
（＝ **追求**）

作者は意図的に宝物を隠す
（簡単に見つけられないように仕掛ける）



# 追求の難しさ




・ストーリーを追うことが中心になる。（表面的な読み）
・細部に立ち止まらない。
・分かったつもりになってしまう。
・疑問があっても、勝手につじつまを合わせてしまう。
（誤読の可能性が高い）

・**読むB（追求）の方法を知らない。**

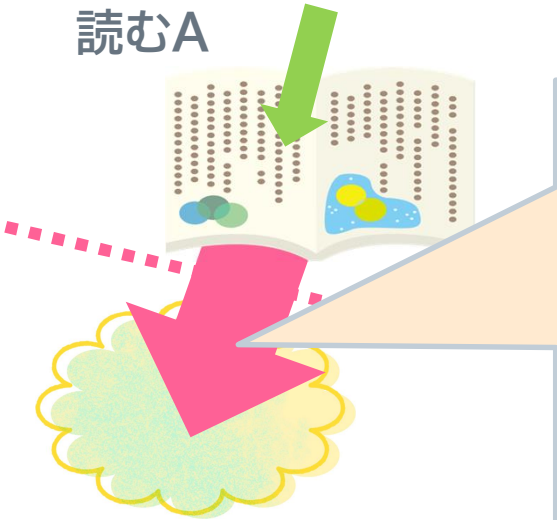
例

それから、十年の年月がすぎました。
ゆみ子はお父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれません。
でも、今、ゆみ子のとんとんぶきの小さな家は、コスモスの花でいっぱいに包まれています。
そこからミシンの音が、たえず速くなったりおそくなったり、まるで何かお話をしているかのように、聞こえてきます。それはあのお母さんでしょうか。
「母さん、お肉とお魚と、どっちがいいの。」
子の高い声が、コスモスの中からました。
ンの音がしばらくやみましシンの音がまたいそがしく始ま買い物かごをさげたゆみ子が、スキッスをしながらコスモスのトンネルをくぐって出てきました。そして、町の方へ行きました。
今日は日曜日、ゆみ子が、小さなお母さんになって、お昼を作る日です。

『一つの花』（四年）

あれ？

# 追求するために必要な力（追求能力）




- 問題をつくる力（違和感・疑問をもつ）
- 謎を育てる力
- 考えをもつ力
- 考えを出す力（発言）
- 考えを聴く力（友だちの考えとの違いが分かる）
- 考えを吟味する力（証拠を見つける）
- イメージをもつ力
- 否定を恐れない力（自分の考えを変える）

# 追求能力の発揮

○違和感・疑問を出す　謎を育てる
「これっておかしいよ」
「なぜこんなことするの？」
「よほどの理由があるはず」

○考えを出す
「私はこう思うよ」
「私はこんなイメージだよ」
「私は分からない」

○考えの違いを認識できる
「私はAさんの考えとは違う」
「AさんとBさんの考えはここが違う」
「私はどちらでもない」
「みんなはどっちなの？」

○根拠を表出して吟味できる
「私はBさんに賛成（反対）で・・・」
「証拠探しをしよう」
「この言葉を調べてみよう」
「新しい問題をつくろう」
「この言葉は～意味だから…」

○解決して新しいイメージを表出できる
「私はイメージが変わって・・・」
「最初は・・・だと思ったけど・・・」

違和感・疑問

↓

問題をつくる

↓

謎を育てる

↓

考える必然性

（追求課題）

丸谷才一（2002）「思考のレッスン」

## 「謎」を育てよう

――いよいよ実際にものを考えるに当ってどうすればいいかというお話に入ります。丸谷さんに「考え方のコツ」を伝授していただこうというわけです。

**丸谷**　考える上でまず大事なのは、問いかけです。つまり、いかに「良い問」を立てるか、ということ。ほら、「良い問は良い答にまさる」という言葉だってあるでしょう。もちろんずいぶん誇張した言い方だけれども、たしかに問の立て方は大事ですね。

では「良い問」はどうすれば得られるのか？　それにはかねがね持っている「不思議だなあ」という気持から出た、かねがね持っている謎が大事なのです。

「良い問」の条件の第一は、それが自分自身の発した謎だという点です。他人が発した謎、でき合いの謎では切実に迫ってこない。仮にでき合いの謎だとしても、自分が痛切に「おや、おかしいぞ。不思議だぞ」と思ったとき、それはよい問になるわけですね。

二番目に大切なのは、謎をいかにうまく育てるかということです。どんな謎でも、最初は「不思議だなあ」といった漠然としたものにすぎない。それを上手に「良い問」に孵化してやることが大切です。ところが、これがなかなかむずかしいんですね。

よく自分の疑問を人に話す人がいますが、これはお勧めしません。というのは、そんなことを他人に話したって、だいたい相手にされない（笑）。相手にされないと、「これはあまりいい疑問じゃないのかなあ」と自信をなくして、せっかくの疑問が育たないまま終ってしまう。

一番大事なのは、謎を自分の心に銘記して、常になぜだろう、どうしてだろうと思い続ける。思い続けて謎を明確化、意識化することです。そのためには、自分のなかに他者を作って、そのもう一人の自分に謎を突きつけて行く必要があります。

普通の意味で他者と言えば、世間のことですね。ところが、世間を相手にしてはならない。なぜかと言えば、世間は謎を意識しないからです。そんなことにいちいちこだわっていると成り立って行かないから、もっぱら流行に従って暮す。それが世間というものなんですね。

# 違和感・疑問をもつ練習

教材「クロツグミ」を使って

クロツグミ

高村光太郎

①　クロツグミなにしゃべる。
②　畑の向うの森でいちにちなにしゃべる。
③　ちょびちょびちょびちょび、
④　ぴいひょう、ぴいひょう、
⑤　こっちおいで、こっちおいでこっちおいで、
⑥　こいしいよう、こいしいよう、
⑦　ぴい。
⑧　おや、そうなんか、クロツグミ。

知らない言葉はないし‥
難しい言葉もないし‥‥
登場するのは「クロツグミ」‥‥

おそらく、こういう話‥‥

**あえて、違和感・疑問をもつ**

# 書き手の仕掛けを見逃さない

平野敬一郎（2006)「本の読み方　スローリーディングの実践」(PHP出版)

- ▷ 作品の一語一句のレベルから作品全体に至るまで、「こう読んでもらいたい」という「作者の意図」は必ずある。
- ▷ 書き手の仕掛けや工夫を見逃さない。
- ▷ とにかく、大切なのは、立ち止まって、『どうして？』と考えてみること。
- ▷ 「なぜ、わざわざ、作者はこんな書き方をしているのだろう？　なぜ、あえてこんなことを書いているのだろう？」とかんがえるところから始めなければならない。

**㋐登場人物の、変な言動**（→見つけやすい）
**㋑登場人物の、変な言動**（→見逃しやすい）
**㋒言葉の使い方、文の書き方、描写の仕方・・・等**（→見逃しやすい）

クロツグミ

高村光太郎

① クロツグミなにしゃべる。
② 畑の向うの森でいちにちなにしゃべる。
③ ちょびちょびちょびちょび、
④ ぴいひょう、ぴいひょう、
⑤ こっちおいで、こっちおいでこっちおいで、
⑥ こいしいよう、こいしいよう、
⑦ ぴい。
⑧ おや、そうなんか、クロツグミ。

例えば・・・

▷ ⑤は誰が言ってるの？
▷ ⑥は誰が言ってるの？

↓

▷ ⑤ クロツグミの声か
▷ 作者の声か

対立

▷ ⑥ クロツグミの声か
▷ 作者の声か

対立

↓

▷ どっち？

クロツグミ

高村光太郎

① クロツグミなにしゃべる。
② 畑の向うの森でいちにちなにしゃべる。
③ ちょびちょびちょびちょび、
④ ぴいひょう、ぴいひょう、
⑤ こっちおいで、こっちおいでこっちおいで、
⑥ こいしいよう、こいしいよう、
⑦ ぴい。
⑧ おや、そうなんか、クロツグミ。

さらに・・・

▷ ⑧「おや、そうなんか」って、何が分かったの？

# 子どものイメージの違い（一例　3年生4月）

- ▷ クロツグミの子どもがおかあさんをよんでいると、分かった。
- ▷ もう一羽のクロツグミに「こっちおいで、こっちおいで」と言っているのが分かった。
- ▷ こっちに来てほしいということが分かった。
- ▷ 赤ちゃんが生まれて、おなかにあかちゃんがいたということが分かった。
- ▷ 一日こんなことをしていたんだ、ということが分かった
- ▷ 「こっちおいで、こっちおいで」と言っている
- ▷ クロツグミが、こいしいと思っている
- ▷ 「こっちおいで、こっちおいで」と言っ
- ▷ クロツグミがこっちに来てほしいと思
- ▷ 一人でさびしかった、ということが分かっ
- ▷ なぜないているのかが分かった。

**これらを手がかりにして、**
**対立問題をつくり、**
**解決に向かう**

# 違和感・疑問をもつことは追求のスタート

違和感・疑問

イメージの違い

問題・考えの対立

考えの吟味・解決

隠されたものの発見

①クロツグミなにしゃべる。
②向うの森でいちにちなにしゃべる。
③びちょびちょびちょびちょび、
④ひょう、ぴいひょう、
⑤こっちおいで、こっちおいでこっちおいで、
⑥こいしいよう、こいしいよう、
⑦ぴい。
⑧おや、そうなんか、クロツグミ。

高村光太郎

予想は、この中にある。

⑧は、③～⑦が原因

予想外で、何が分かったのか。

クロツグミ

高村光太郎

① クロツグミなにしゃべる。
② 畑の向うの森でいちにちなにしゃべる。
③ ちょびちょびちょびちょび、
④ ぴいひょう、ぴいひょう、
⑤ こっちおいで、こっちおいでこっちおいで、
⑥ こいしいよう、こいしいよう、
⑦ ぴい。
⑧ おや、そうなんか、クロツグミ。

さらに・・・

- ▷ ①と②の「なにしゃべる」は同じなの？
- ▷ 「しゃべる」は文句？質問？
- ▷ なぜ、①を言ってから②を言うの？
- ▷ なぜ「畑の向うの」とわざわざ森の場所を言うの？
- ▷ なぜ「いちにち」と言えるの？
- ▷ ①と②は同じ時に言ったの？
- ▷ なぜ・・・？

**見逃しやすい仕掛け**

クロツグミ

高村光太郎

① クロツグミなにしゃべる。
② 畑の向うの森でいちにちなにしゃべる。
③ ちょびちょびちょびちょび、
④ ぴいひょう、ぴいひょう、
⑤ こっちおいで、こっちおいでこっちおいで、
⑥ こいしいよう、こいしいよう、
⑦ ぴい。
⑧ おや、そうなんか、クロツグミ。

さらに・・・

- ▷ なぜクロツグミの声のなのに、「こっちおいで」「こいしいよう」と言うのか。
- ▷ この一文は、一回だけか。
- ▷ 「こいしいなあ」じゃなく、なぜ「こいしいよ」なのか。
- ▷ 「ぴい。」は無くてもいいのに、なぜあるの？
- ▷ なぜ・・・？

**見逃しやすい仕掛け**

【例】

ある大きなかたすみに、楽器倉庫がありました。こわれて使えなくなった楽器たちが、くもの巣をかぶって、ねむっていました。

あるとき、月が倉庫の高まどから中をのぞきました。

「おやおや、ここはこわれた楽器の倉庫だな。」

その声で、今までねむっていた楽器たちが目を覚ましました。

「いいえ、わたしたちは、こわれてなんかいません。働きつかれて、ちょっと休んでいるんです。」

こわれた千の楽器（四年）

学校からの帰り道のことだ。牧場のわきを通りかかったとき、春花は、そこに見なれない子馬がいることに気がついた。

つやつやした毛なみの、茶色の子馬だ。立ち止まってじっと見ていると、目があった。子馬は、ぱちりとまばたきした。春花は、その美しい目に、すいこまれそうな気がした。

作業をしていた牧場のおばさんが、手を止めて、春花に話しかけた。

「この子　生れたばかりなの。」

なまえつけてよ（五年）

ぼくが今よりずっと赤ちゃんに近く、おじいちゃんが今よりずっと元気だったころ、ぼくとおじいちゃんは毎日のように、お散歩を楽しんでいました。

だいじょうぶ　だいじょうぶ（五年）

# 子どもが自ら追求する土台をつくる

- ▷ 4月最初の教材で勝負！
- ▷ 違和感・疑問をもつ練習をし、感覚を磨く。
- ▷ 違和感・疑問を、「謎」として育て合う。
- ▷ 解決に導き、できるだけ早く「おもしろい！」を実感させる。
- ▷ 「面白い！」を数多く（日常的に）実感させる。
- ▷ その過程で、追求能力を高める。

**教師は教材研究で！**
**子どももは授業で！**